

大豆収量・品質向上のポイント

雑草防除を確実に

- ① 播種時の作業速度を遅くして、土の砕土率を高めます。
⇒ 播種後に散布する土壌処理剤の効果が安定します。
- ② 土壌処理剤は、ラベル表示の散布水量を守り、土壌が適度な水分を含んでいるときに散布します。
- ③ 中耕培土は2回行います。
1回目：大豆3葉期頃
2回目：大豆5～6葉期頃
(茎葉や根を傷めないよう開花1週間前までに終わります。)

★①～③の基本技術を確実に行いましょう。大豆開花期頃になれば、大豆の葉でほ場表面がほぼ被覆され、雑草発生が抑えられます。雑草が繁茂すると、大豆の生育を妨げ、収量を低下させるだけでなく、収穫時に生産物に混ざり、品質低下の原因になります。

新規茎葉処理剤「アタックショット乳剤」について

特に、ケイトウ、ホオズキ、アサガオ類といった帰化雑草が発生するほ場では、新しい茎葉処理剤であるアタックショット乳剤での追加防除が効果的です。1回目の中耕培土の後、雑草の発生を確認したらほ場全面に散布します。



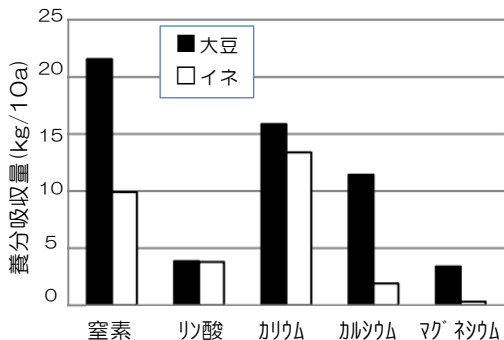
薬剤名	使用時期	使用薬量	希釈水量	使用回数
アタックショット乳剤	だいたず2葉期～開花前	30～50 ml/10a	100 l/10a	1回

アタックショット乳剤使用時の注意事項

- 雑草の草丈が10 cmを超えると効果が劣ります。
- 散布時に展開していた大豆の葉に褐変、葉の縮れ、白化といった薬害が生じますが、処理後に新しく展開する葉への影響はなく、次第に目立たなくなります。
- 生育不良の場合は、薬害が強くなる場合があります。心配な時は、散布前にJAや普及センターにご相談ください。
- 展着剤の加用は薬害が強くなるので避けてください。

土壤改良資材を積極的に施用しましょう

- 大豆はイネと比較して養分吸収量が多く、特にカルシウム（石灰）やマグネシウム（苦土）は水稻の5倍程度必要であり、収量向上のためには、土壤改良資材の施用が重要となります。
- 麦大豆連作の低 pH 圃場では、根粒菌の活性が低下するため、石灰による酸度矯正が必要です。



作物別養分吸収量傾向
(平成26～28年青森農林総研)
注) 大豆子実肥大期、イネ成熟期
図引用：青森県産業技術センター（成果情報、2017）

■ 土壤改良資材の例

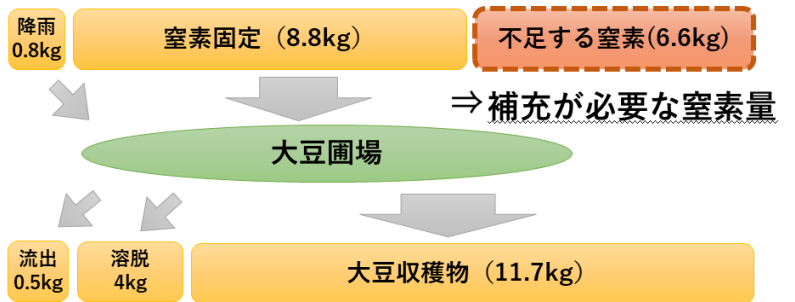
資材名	主な成分	施用量 (kg/10a)
◎苦土石灰	カルシウム, マグネシウム	100
リンスター30	リン酸, マグネシウム	40
◎農カアップ	カルシウム, ケイ酸, リン酸, マグネシウム	40～60
けい酸加里	ケイ酸, カリ, マグネシウム	40～60

※酸度矯正には、◎印の資材を使用してください。

大豆の収量向上には窒素の供給が重要

- 大豆は根粒菌により窒素固定を行うため、必要窒素量のうち 2/3 程度を空気中から吸収します。
- しかし、残り 1/3 は施肥や地力窒素からの吸収となるため、収量向上のためには、施肥による窒素供給を行いましょう。

■ 大豆圃場における窒素収支（単収 180kg の場合）



参考：富山県農林水産総合技術センター（成果情報、2005）

施肥方法

■ 各時期の施肥効果

時期（播種後日数）	効果	窒素必要割合
生育初期（15～30 日後）	出芽後の初期生育の確保、根粒菌の着生促進	30%
開花期（45～60 日後）	着莢数の増加、稔実の向上	70%
子実肥大期（70～85 日後）	大粒比率の向上、しわ粒の抑制	

- 大豆は開花期からの 1 ヶ月程度で、生育中に必要な窒素の約 70%を吸収しますが、開花期以降は根粒菌の活動が低下するため、施肥による窒素供給が必要となります。
- 特に近年、小粒傾向となっているため、開花期に追肥を行い、大粒比率の向上に努めましょう。

■ 大豆の施肥方法

体系	種類	時期	肥料の例	窒素施用量 (kg/10a)
①分施の場合	基肥	耕起時～播種時	大豆化成、オール14	1～2
	追肥	開花期～10日後	尿素、オール14	4～6
②基肥一発の場合	基肥	耕起時～播種時	大豆エムコート561	3

※根粒菌の活動が低下しやすい湿田や連作田、低 pH 圃場では、多くの施肥量が必要です。